

# ワコンニュース

川崎市宮前区版 2020年12月25日掲載

## 市政報告 新型コロナ感染から子どもたちを守るために 情報の提供と子ども 프라이バシーを考える みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ



おだかつひさ

1961年宮前区生まれ。駒場東洋高校、中央大学法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選。現在5期目。文教委員会委員、大和市財政特別委員会特別委員、好きな言葉「知行合一」。「橋を越える者は管内足らざるなり」有馬在任

おだかつひさ 議員

新型コロナ感染拡大に  
者に対する適切な情報提  
供のあり方です。

で、もし「学校」で感染  
者のクラスターが多数発  
生した場合、どうするの  
か。子どもたちを守る予  
防体制の構築を議論して  
きました。

◎当初は学校名を公表  
懸念されるのは、感染  
者が発生した場合の保護  
情報公表する、との方

針でした。(公表するの  
は個人名ではなく、あく  
までも学校名です)

「学校が休業であれば公  
表。感染した児童・生徒  
が出席停止(自主欠席)  
だと非公表」との運用に  
変更されていたのです。

◎感染を把握できず  
変更により、学校名の  
秘匿が最優先され、校内  
でクラスメイトが感染し  
てもその真偽すら、学校  
は保護者に伝えなくなり  
ました。

この対応では、子ども  
たちの身近な生活圏での  
感染の実情が把握でき  
ず、感染予防や、学校と

の信頼関係を維持する視  
点からも、地域に混乱と  
困惑をもたらせていると  
実感しています。学校か  
らの情報がない事で保護  
者は「安全であると思い  
込んでしまう」ことも心  
配です。

◎子どもの心情を配慮？  
学校内に濃厚接触者が  
いない場合には、学校に  
おける感染の可能性が低  
いので、感染した子ども  
のプライバシーや心情に  
配慮して積極的な通知は  
控えている、というのが  
教育委員会の見解です。

ちなみに、双方がマス  
クを着用して会話をして  
いれば濃厚接触者とはさ  
れません。

◎学童でクラスター発生  
10月下旬に宮前区内の  
学童保育で職員が感染す  
ることによるクラスター  
が発生しました。高津区

で3人、宮前区で5人の  
小学生の陽性が確認さ  
れ、このクラスターの一  
部児童から小学校教員が  
感染しています。

この学童保育には8小  
学校の児童が在籍してい  
たことから、校名をばじ  
め、当該校が正確な情報  
を保護者に提供しないこ  
とで、近隣の多くの保護  
者に不安をあたえ、保健  
所なども対応に迫られた  
のです。

◎学校と保健所の連携を  
地元の医院などの医療  
機関を予防する観点から  
も、学校と保健所が感染  
者および濃厚接触者の情  
報を共有し、保健所が地  
元医師会に正確な情報を  
提供する仕組みも必要と  
考えます。

引き続き、議論を深め  
ていきます。どうぞご意  
見をお寄せ下さい。